

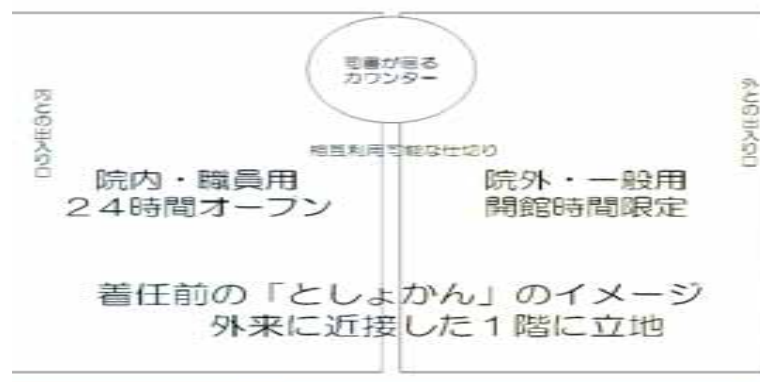


正式開設となった入院患児・患者のための 「親と子のとしょかん」の紹介

「画に描いた餅」

になるのかもしれないが、
こういう病院図書館があったら、
職員と患者さんとがうまく
コミュニケーションをとれるの
ではないだろうか、と、
産科医と二人で夢を語り合った。

1982年2月 夢

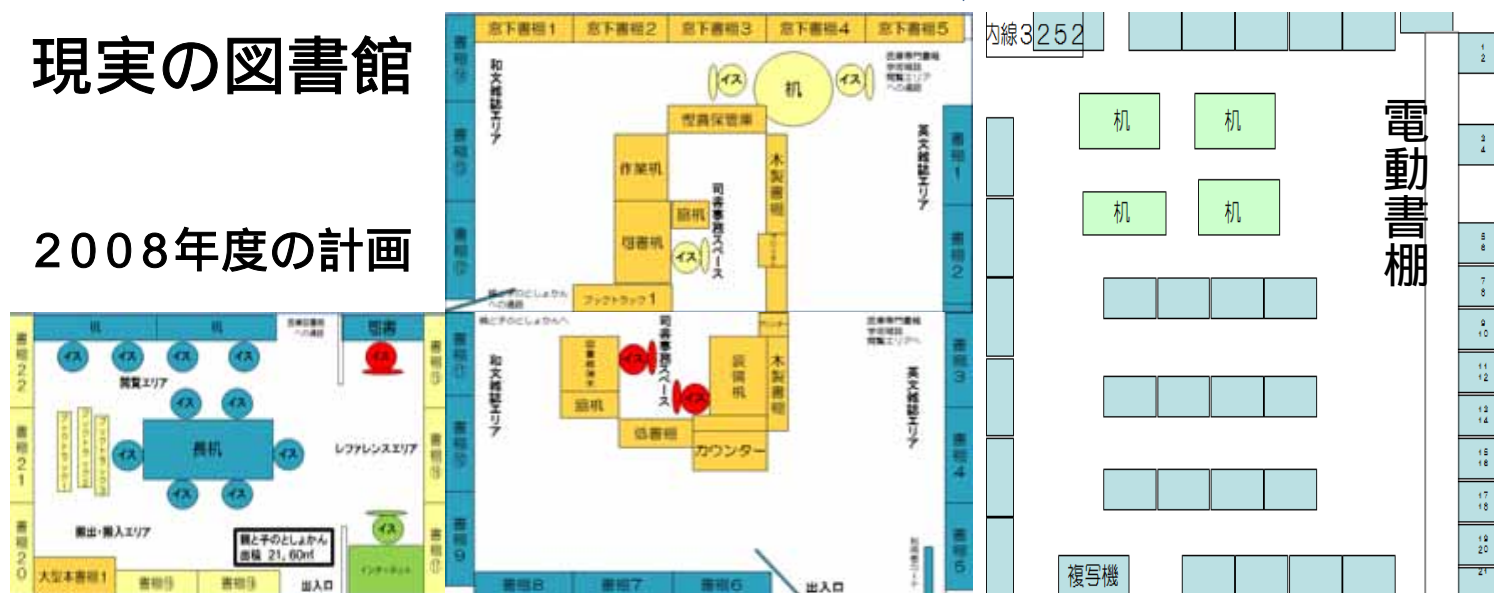


中央のカウンターに司書が常駐
しており、職員への対応も患者
さんへの対応も同じように可能。
患者さん用のフロアには、子ど
も向けの絵本なども置いており、
そこには、外来に来る子どもも
近隣に住んでいる子どもも同じ
時間帯に利用できる。が、夢。



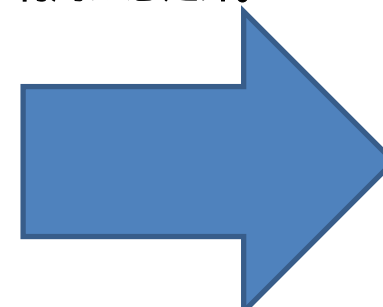
現実の図書館

2008年度の計画



10年後には、
隣室が移転予定。
書棚の増設計画。

外来患者さんの
利用は想定外。



「親と子のとしょかん」の蔵書は、許可された職員のみが、借り受けることができる。

利用できる人

- ・ 病棟担当看護師
- ・ 病棟保育士
- ・ ボランティア
- ・ 院内学級教員
- ・ ホスピタルプレイスペシャリスト
- ・ チャイルドプレイスペシャリスト
- ・ ボランティアコーディネーター

現在の状況

入院患児・患者の
直接入館は
許可されていない。

当面は、患者さんの代わりに
借り受けて病室にデリバリー。
病棟プレイルームに200冊程度
を常設。定期的に入れ替える。

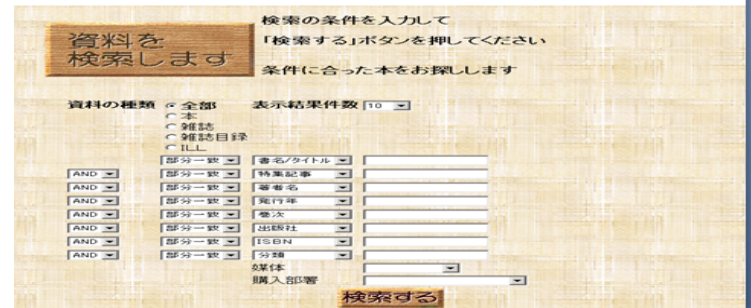
患者さん・その家族が
やってくることは、
新設の部屋に移動したとし
ても、職員からの
反対意見は、多い。
賛成意見は、
今のところ皆無。

いまは、
医学専門書との同居
だが、近々、移動予定。

発表者：中村雅子
大阪府立母子保健総合医療センター図書館

図書委員会での合意点
患者さんに提供する
医療・健康書を選定する。
スケジュールなどは未定。

OPAC : Online Public Access Catalog



図書館システムに所蔵
データを搭載しているので、
OPACで検索可能



病棟保育士
読み聞かせボランティア
院内学級教員
などにフル活用されている

